



駒中だより

けじめ あいさつ 思いやり

台東区立駒形中学校 令和7年10月2日発行

こ こころざしの高い生徒
ま 学び続ける生徒
が 我慢できる生徒
た 他を思いやる生徒

運 鈍 根

副校長 椿 一夫

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、朝夕の涼しさが心地よく、ようやく秋の訪れを感じられます。何をするにも気持ちよく取り組むことができる季節になりました。「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」など、秋を表現する言葉は様々ありますが、今年の秋、みなさまにとりましては、どのような「〇〇の秋」でしょうか。本校では大きな学校行事の一つ『文化合唱発表会』を控え、生徒一人一人の頑張りを結集し、学級・学年そして学校が一丸となって取り組んでいきたいと考えております。まさに「芸術の秋」といったところでしょうか。

さて、表題の『運鈍根』・・・あまり聞きなれない言葉だとは思いますが。古河財閥の創業者、古河市兵衛が明治初期の激動の時代を生き抜く中で見出した教訓から生まれた言葉であり、人が成功するために必要な三つの要素、物事を成し遂げる上で普遍的に重要とされる条件と言われています。

‘鈍’は鈍いと思われるくらいの粘り強さを意味します。頭が良すぎて才走るのではなく、鈍いくらいに粘り強く、そして世間の評価に惑わされない鈍感力が大切です。

‘根’は根気や根性、諦めない心のことです。物事に耐える気力や最後までやり抜く根気、諦めない強い心をさしています。

これから始まる各クラスの合唱練習も‘鈍’と‘根’の心を持つことが大切なのではないでしょうか。そして、その後の学校生活や卒業後の生き方にも役立つように思います。

最後に‘運’、幸運に恵まれること、人生における巡り合わせや予期せぬ出来事などを意味します。「粘り強く頑張りましょう。」とは相反する言葉のように思えますが、よく考えてみましょう。今、私たちの周りにはいる人たちや環境、恵まれていると思いませんか。駒形中学校でのいろいろな人との出会いや経験が、幸運であったと思ってもらえるような関わり合いを私たちも心がけていきたいと思うのです。

